

北方特産 収穫始まる

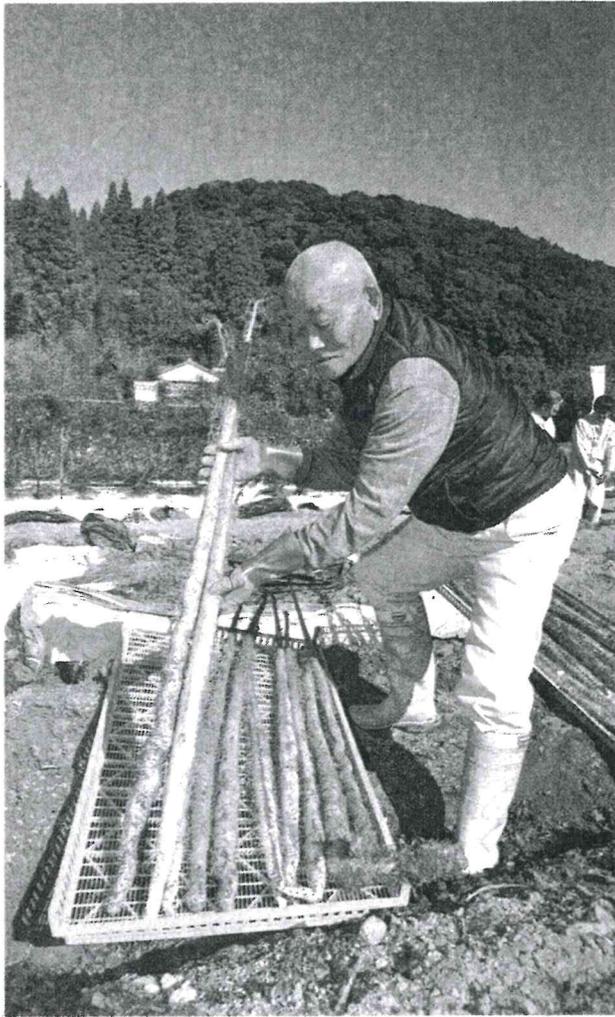
「元気ばりばりじねんじょう」

1/20 生産組合 年末の贈答品にどうぞ

延岡

延岡市北方町の特産品「自然薯（じねんじょう）」の収穫が始まった。今シーズンは同町自然薯生産組合甲斐明組合長（7戸）が前年より1・5ト多い5・9トの収穫を見込む。「元気ばりばりじねんじょう」のネーミングで道の駅などで販売されるほか、年末の贈答品として全国に発送される。

同町の自然薯栽培は1 職員の共同で試験栽培が 143㍍で栽培。品質 998年に地元農家と町 スタート。2001年か 現在は町内の生産者7戸 の高さで各方面から高い



「元気ばりばりじねんじょう」を手にする甲斐操さん（きょう、延岡市北方町）

評価を受けているという。ムカゴから種芋を作り、畑に植えて生育させるため、収穫までには約2年を要する。今シーズンは3〜4月に種芋植え。天候不順や台風の影響

響はあったが、例年に負けない味質のものが育っているという。20日は同町等下地区の甲斐操さん（74）方の畑で収穫祭があり、生産者や市北方町総合支所の職員らが出席。土の中から波板を掘り起こし、ビニールを取り外すと、真っすぐに伸びた自然薯が姿を現した。甲斐操さんは「取り出すまでどうなっているか分からなかったが、無事に成長してい

よかった」と笑顔を見せた。収穫は来年2月ごろまで続く。道の駅北方よつちみろ屋で販売され、30日と12月1日は「自然薯まつり」を開催。ほかに、県北の郵便局では12月20日までゆうパックによる販売の申し込みを受け付けている。甲斐明組合長は「生産者が協力して自然薯を精魂込めて育ててきた。地元の人だけでなく、全国

の人に味わってほしい」と話した。